

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：62501

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12515

研究課題名（和文）幕末維新期の角館地域を中核とした知的関係と政治意識の形成

研究課題名（英文）Formation of intellectual relations and political consciousness centered on the Kakunodate area during the 19th

研究代表者

天野 真志（AMANO, MASASHI）

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授

研究者番号：60583317

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、旧秋田藩領角館地域を事例として、多様な学問体系を受容する地域社会の思想的展開と政治意識の関係について分析を行った。また、角館地域での講演会等を実施することで地域発信を行い、地域における関連団体との交流をとおして情報共有や普及を進める事ができた。さらに、成果を踏まえた論文執筆および著書の刊行を行い、学術成果としても発信を行うことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究での調査成果を踏まえて秋田藩内の交流関係を通して分析し、『幕末の学問・思想と政治運動』を吉川弘文館より刊行した。本書では、研究課題で目的とした角館地域を中核とした知識人の交流関係の解明を石黒家文書等から考察し、そのなかで石黒家が儒学を中心とした学問的ネットワークに関与するとともに平田延胤を始めとした国学者と情報交流を契機に交流を始め、やがて対外認識や政治構想を議論する関係へと発展することを明らかにすることができた。これらの分析を通して、幕末期における政治運動において、学問交流を基軸としたネットワークが存在し、学派を超えた横断的な情報空間を形成していたことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This study analyzed the relationship between the ideological development and political consciousness of the local community that accepts various academic systems, taking the former Akita feudal lord Kakunodate area as an example. In addition, by holding lectures in the Kakunodate area, we were able to disseminate information to the area and promote information sharing and dissemination through exchanges with related organizations in the area. Furthermore, I was able to write a dissertation and publish a book based on the results, and disseminate it as an academic result.

研究分野：日本近世・近代史

キーワード：政治意識 幕末維新期 角館地域 秋田藩 平田国学 学問 思想

1. 研究開始当初の背景

近年の幕末政治史研究においては、諸藩や浪士などの諸活動や政治意識を通じた多様な政治勢力の役割が注目されている。特に武家社会においては、伝統的な幕藩制的秩序に基づいた情報伝達と文化的交流から逸脱する動きが顕在化し、下級武士層を中心に支配領域を超えた横断的連携と政治活動の展開が注目される。また、地域社会においては政治不安や対外的危機に触発された民衆の政治関心の増大が、やがて平田国学や水戸学に触発されるかたちで国事活動への参入を志向する社会現象へと展開するとされる。

これらの状況に通底するのは、儒学や国学など、学問・文化の広がり政治関心の基盤として想定されることである。しかし、儒学と国学、儒学と洋学など、平時においては対立的な思想的基盤とも捉えうる諸勢力が、なぜ対外的危機や内政不信といった危機を契機に政治意識を共有するにいたったのかについて、具体的な経緯は不明な点が多い。政治動乱を主導した変革主体の実像は、幕末維新の歴史的意義に通じる根源的な問いでもあるが、この課題に対しては、諸関係の社会的・政治的位置を踏まえた分析が求められる。

これまで申請者が検討してきた出羽国秋田藩では、幕末維新时期において平田国学の思想的・政治的影響が指摘されてきたが、秋田藩領内において政治的マイノリティであったはずの平田国学勢力が、なぜ藩の政治に影響を及ぼすに至ったのかについて、具体的な背景は未解明のままである。そこには、篤胤以来秋田藩士として活動する平田家と領内勢力との間における何らかの交流関係が想定され、情報・思想・文化・地域など多面的な分析に基づく具体相を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、近世以来多様な学問体系を受容し、複合的な文化的空間を形成した出羽国秋田藩角館地域を対象に、平田国学流入以前の文化的特質の形成、平田国学と角館地域との対峙、平田国学との関係を通じた政治意識の形成を検討する。これまで国学思想の政治的役割についてはその具体像を提示するに至っていないが、本研究では秋田藩角館地域を対象としたモデルケースとして、平田国学との関係を通じた政治意識の具体相を提示し、近代国家形成過程における文化・思想の政治的意義を再検討することを目指す。

3. 研究の方法

本研究では、3つの課題を設定し、角館領域における政治意識の形成過程を検討した

歴史的・地勢的背景下における社会的・文化的特質の形成

角館地域は、近世以来他地域との文化的交流が頻繁におこなわれる地域である。現在の武家屋敷群においても、蘭画に傾倒し平賀源内の仲介を経て『解体新書』図版の制作を担当した小田野直武や、幕末期に江戸で西洋医学を学び、領内各地で種痘を実施した高橋瘡庵などの活動を示す諸資料が伝来しており、彼等の広域的な交流関係と情報・文化の蓄積状況が確認される。本研究では、これらの文化的交流がどのようなかたちで当該地域に形成され、幕末期の政治動乱期においていかなる作用をもたらすものかを検討した。具体的には、武家屋敷群内の石黒家を対象として、同家所蔵文書の調査をとおして、近世後期から幕末維新时期における交流関係の実態を分析する。石黒家は、幕末期の当主石黒織紀の時代に私塾を経営し、角館内外の文化人との交流関係を形成していたといわれる。これまで石黒家文書の存在はほとんど知られていなかったが、本研究で同家の文書群調査を悉皆的に実施し、当該地域の交流関係とその変遷過程を検討した。

なお、調査に際しては、角館武家屋敷群を中心に伝来文書の調査をおこなうとともに、町外に分散した文書群の所在情報を調査し、近世後期以降の北家家臣団の基礎構造を把握することを目指した。具体的には、秋田県公文書館所蔵「佐竹北家文書」および「吉成文庫」などを主な対象とし、関連資料の照合を通して角館町における武家社会構造の実像を検討した。

角館地域における平田国学の認知とその影響

秋田藩の思想・文化で課題となるのが平田篤胤とその一家、さらにその私塾気吹舎との関係である。これまで、秋田藩内における平田国学の位置付けについては、実証的な検討に至っておらず、既存の地域文化や思想に対する気吹舎の関与形態とその反応について、気吹舎と地域文化の双方向的な検討が必要となる。本研究では、その地域的展開を検討する素材として、国立歴史民俗博物館所蔵「平田篤胤関係資料」と角館城下関連資料とをあわせて分析し、平田国学思想と平田家の活動が領内に与えた影響を検討した。

角館地域および秋田藩と平田国学との思想的・政治的関連性はなにか

以上の検討を踏まえ、幕末維新时期の政治的・社会的経過において、角館城下で形成された思想・文化の特質を検討した。さらに、その特質が秋田藩にとっていかなる位置を占めるのかを分析し、当該期秋田藩の思想的性格を検討した。

従来、幕末維新时期における秋田藩の思想的特質は、平田国学との対立と支持、という二項対立

的な構図で捉えられる傾向にあったが、本研究では、多様な文化的基盤の一つとして平田国学を捉え直した上で、あらためて平田国学と秋田藩との思想的関係を再検討した。

4．研究成果

角館地域における調査活動を行い、旧城下町を中心として関連文書群の存在を確認するとともに、地域研究団体と協力した調査および情報発信としての講演会を企画する事ができた。また、一連の成果をとして幕末政治過程における学問・思想の役割について秋田藩内の交流関係を通して分析し、2021年4月に『幕末の学問・思想と政治運動』を吉川弘文館より刊行した。本書では、研究課題で目的とした角館地域を中核とした知識人の交流関係の解明を石黒家文書等から考察し、そのなかで石黒家が儒学を中心とした学問的ネットワークに関与するとともに平田延胤を始めとした国学者と情報交流を契機に交流を始め、やがて対外認識や政治構想を議論する関係へと発展することを明らかにすることができた。これらの分析を通して、幕末期における政治運動において、学問交流を基軸としたネットワークが存在し、学派を超えた横断的な情報空間を形成していたことが明らかとなった。

また、石黒家文書調査の成果の一つとして、幕末期の石黒家当主である石黒織紀が編纂した風説留を翻刻し、史料集『石黒織紀 膺懲稗史』を製作した。角館地域を中核とした情報交流を象徴する風説留である「膺懲稗史」は、ペリー来航期から明治2年に至る全国の政治情報や秋田藩内の政治議論を膨大に収録しており、当該期の石黒家や角館地域をとりまく政治・思想状況を理解する上で重要な史料である。

2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で現地調査を実施することができなかったが、その一方で所蔵者および角館地域における関係者と協力して情報精査を進め、これまで蓄積した史料情報を整理・翻刻することによる成果発信を展開することができた。その結果として史料集を作成して秋田県内の関係者や資料保存機関等に配布し、本研究成果の一部を関連地域に還元するための基盤整備にすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 天野真志	4. 巻 846
2. 論文標題 書評：宮下和幸著『加賀藩の明治維新 新しい藩研究の視座 政治意思決定と「藩公議」』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 83-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 129-5
2. 論文標題 史料論（近世、日本、2019年の歴史学界 回顧と展望）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 142-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 10
2. 論文標題 幕末期角館地域をとりまく学問と政治 元治元年の騒動を手がかりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 るねっさんず・角館	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 133
2. 論文標題 書評/栗原伸一郎著『戊辰戦争と「奥羽越」列藩同盟』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史	6. 最初と最後の頁 73-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 831
2. 論文標題 紹介/秦達之著『尾張藩草莽隊』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 18
2. 論文標題 紹介/友田昌宏『東北の幕末維新』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 明治維新史研究	6. 最初と最後の頁 73-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻
2. 論文標題 近世佐竹家中の歴史意識と常陸の記憶	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 茨城県立歴史館令和元年度特別展 佐竹氏 800年の歴史と文化	6. 最初と最後の頁 209-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 3
2. 論文標題 出羽国秋田藩の文書調査と由緒管理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 常陸大宮市史研究	6. 最初と最後の頁 13-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 9
2. 論文標題 幕末期の政治情報と秋田藩・角館 石黒織紀『鷹懲稗史』を取り巻く環境	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 るねっさんす・角館	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 209
2. 論文標題 書評 / 奈倉哲三・保谷徹・箱石大編『戊辰戦争の新視点』上下	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴博	6. 最初と最後の頁 23-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 11
2. 論文標題 由緒を探求する人びと	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 るねっさんす・角館	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 出羽国佐竹家の由緒と歴史意識
3. 学会等名 第8回災害文化と地域社会形成史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 幕末期の気吹舎情報をめぐる政治・思想関係
3. 学会等名 2019年度東北史学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 奥羽の政治・文化と戊辰戦争
3. 学会等名 平成30年度歴博友の会歴史学講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 戊辰戦争と秋田藩 仙台藩への眼差し
3. 学会等名 東北福祉大学歴史講座「仙台藩と戊辰戦争150年」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 幕末的世界の中での秋田藩・角館
3. 学会等名 ルネッサンス・角館 第29回歴史と文化フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 秋田藩の選択 奥羽への眼差し
3. 学会等名 歴史シンポジウム in 白石 戊辰戦争 奥羽の選択～それぞれの列藩同盟～（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 平田篤胤が遺したもの 幕末政治と思想のゆくえ
3. 学会等名 第413回歴博講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 天野 真志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 260
3. 書名 幕末の学問・思想と政治運動	

1. 著者名 天野真志	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 255
3. 書名 石黒織紀 『膺懲稗史』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------